

令和2年度 小林市立須木小学校 学校運営協議会評価書

4段階評価	4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する
-------	-----------------------------------------------

学校経営ビジョン	「夢や希望をもち、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」 ～「学びたい」子ども「学ばせたい」学校・家庭・地域の集う学校づくり～ 【テーマ エンジョイ！すきっ子ライフ】
----------	---------------------------------------------------------------------------------

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	委員評価	学校運営協議会委員のコメント		
知育	重点目標: 基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成 手段 1 基本的学習習慣の徹底 2 宅習ノートを活用した学びのサイクル作りの推進 3 タブレットを活用し、児童の学習意欲と活用技能の定着を図る 4 絵本100冊運動の実施と、読書を活用した学力向上の取組の推進 5 一人1授業の実施、授業論文の応募等を通じた授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆の持ち方グリップを活用させることで、少しずつ正しい持ち方のできる児童が増えてきた。全員が正しい持ち方ができるように継続して支援を行っていききたい。 ・昨年度と比較すると、教師の評価が0.6ポイント、保護者の評価が0.1ポイント高くなっている。 ・あと数名が、正しい鉛筆の持ち方ができていない。全員が正しい持ち方ができるように、粘り強く指導していききたい。 ・家庭学習の4つの決まり、6つの約束を作成し、宅習ノートに貼らせたり、よい宅習をコピーし児童玄関の壁に掲示したりすることで改善を図ってきた。しかしながら、個別指導を要する児童もおり、昼休み等に個別指導を行ってきた。今後は、家庭とも連携をして更なる改善を図っていききたい。 ・宅習の書き方や学習習慣の確立に向けた家庭への働きかけや支援が十分ではなかった。動画視聴やゲームといったメディアの利用への指導も含めて、次年度以降は、協力して家庭学習の指導を行っていききたい。 ・今年度は、タブレットの活用率は、昨年度と比較すると大きく向上している。保護者の評価は0.4ポイント向上している。 ・今年度は、教師のタブレット活用に関する研修や子供達の活用について研修を行ってきた。しかしながら、更に効果的な活用方法について、研修を深めていく必要がある。 ・実際にノートに書くことも大切なことであり、ノートの書き方指導とタブレット活用とのバランスをとっていく必要がある。 ・読書旬間における教師や委員会による読み聞かせ、代表児童による本の紹介、多読賞表彰などの取組により、本を読む児童は増えた。 ・図書室の利用状況や読書量には、個人差がある。全校児童の読書の状況を把握し、表彰などの手立てを講じていききたい。 ・あすなろ会の方の御協力により、読み聞かせは充実していた。(児童も楽しみにしていた。) ・国語、社会、理科、総合的な学習の時間等で図書室を活用した。更なる活用を促していききたい。 ・一人1授業は、全員が実施し、それぞれの授業に対する意見や感想を述べることで改善を図った。授業論文には、3名が応募し授業力の向上を図った。来年度は、1学期にも一人1授業を実施し、授業力向上の状況を確認していけるようにしたい。 ・今後は、タブレット等の活用も含めて、子供達の学力が向上するような活用の技術の獲得に向けて、更なる努力を行っていききたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の持ち方と併用して、書く時の正しい姿勢を教えることが必要だと思う。 ・保育園でも、正しい持ち方の指導は行っているが、習慣化してしまうと、なかなか直らない。 ・立腰・鉛筆の持ち方については、昨年度の評価と比較すると、教員の評価も保護者の評価も向上しており、しっかりと取り組んでいると評価できる。 ・学力の向上、その他の学習の向上は、先生と児童の信頼関係から生まれると思う。子供の良いところを褒め、「先生のためにも頑張るぞ」とやる気を引き出す手法も必要ではないかと思う。 ・タブレットを使う学習やオンライン授業の導入等、教育の形態も変化してきている。しかし、書くことも重要である。 ・学力向上のため、あらゆる手段や対策を講じられておられる先生方の並々ならぬ努力は、授業参観、取組、校内掲示の工夫を見れば十分評価できる。 		
	徳育	重点目標: ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 手段 1 いじめ認知の向上 2 学校に行くのは楽しいと感じる児童の育成 3 社会の問題や出来事に関心をもつ児童の育成 4 須木を愛し夢をもつ児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較すると、教師が0.6ポイント、保護者が0.4ポイントアップしている。アンケートは毎月実施し、気になる点がある児童については、聞き取りを行い、早期に対応してきた。認知件数は向上している。 ・家庭に対してもアンケートの実施や個人面談を実施し、困り感の把握とその支援を行った。今後も更なる支援に努めたい。 ・今後は、いじめが起らない環境作りのために、確かな見届けや教師間、家庭との連携の更なる強化に努めたい。 ・昨年度と比較すると、教師が0.6ポイント、保護者が0.7ポイントアップしている。年2回の人権学習の実施、教育相談の実施、廊下に児童の将来の夢を書いたものを掲示したことが、向上した要因ではないかと考える。 ・将来の夢を確かなものにしていくために、学習することが大切であるということを実感できるように、キャリア教育を今後も推進していききたい。また、須木に戻って須木の発展のために頑張りたいと思う児童の育成に努めていききたい。 ・この項目だけが、昨年度と比較して教師0.3ポイント、保護者0.2ポイントと、ともに評価が下がっている。コロナウイルス感染拡大防止のために、校外学習を自粛したことや外部から講師を招くことを控えたことも原因ではないかと考える。夏休み以降は、校外学習等も実施した。今後は、感染対策をしっかりと行った上で講師を招いたり、会議用アプリ(ZOOM)などを活用したりして、外部講師の活用を図っていききたい。 ・授業で作成した作品を、宮日新聞に積極的に応募し、宮日こども新聞の記事をお昼の放送で読む活動も行った。継続していききたい。 ・学校行事(遠足)で、地区内ウォークラリーを実施し、駐在所や郵便局、図書館、商店の仕事内容について学んだ。 ・今年度、総合的な学習の時間の年間計画を改善し、系統的に須木について学ぶことができるようにした。 ・地域の祭りにも多くの児童が参加するように呼びかけた。実際に多くの児童が祭りに参加した。 ・低学年の生活科の学習において、まちたんけんとして、地域内にある事業所や官公庁を見学し、須木で働く人に関する学習を行った。 ・朝の清掃など、自主的にボランティア活動を行う児童がいるが、固定化している。多くの児童に広げられるように呼びかけ等を行っていききたい。 ・須木について学ぶ職員研修を夏、冬の2回行った。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめによる自殺、不登校、人間不信等が、全国的な重要課題となっている。 ・優しさ、楽しさ、尊敬、人の喜び、悲しみが分かる人に育てば、いじめは発生しない。 ・コロナ禍で激増しているいじめは、子供達のストレスが要因ではないだろうか。 ・家庭環境、社会環境、子供環境において、ゆとりのない日常生活を送っている影響が大きいと思う。 ・先生、保護者、地域住民が協力して教育を行うことで、豊かな心をもつ子供を育てることができ、郷土愛をもつ子供に育つことにつながるのではないかとと思う。 ・朝の立ち番指導の際の挨拶が、以前に比べて、小さくなってきた。自分から進んで挨拶ができるようになってほしい。 ・いじめの認知度に関しての評価が、昨年度よりも保護者・教師共に向上している。しっかりと取り組んでいるものと評価できる。 	
		体育	重点目標: 健康的な生活を過ごそうとする児童の育成 手段: 1 健康な体作り、規則正しい生活習慣作り 2 体育の授業の充実 3 運動に親しむ児童の育成 4 保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・1月25日現在で、全員登校が50日達成できている。 ・連続して欠席した児童には、電話連絡や家庭訪問を行い、学校の様子を知らせるなどの対応を行った。 ・家庭の事情による欠席の際に、学校としては、できれば休ませて欲しくないと思われ、保護者の方に納得していただかず、不信感をもたれる結果となった。対応については、家庭の事情も理解した上で、学校としての考えを伝えるように対応していききたい。 ・今年度は、全国での体力テストも実施されなかった。そのため、児童の現在の体力の状況を確認することができなかった。 ・11月に、長距離走大会に向けての練習を行い、大会も実施した。多くの児童の記録が向上した。 ・体育の授業は、水泳も含めて感染症対策を行いながら計画的に実施してきた。 ・タブレットの活用ができなかった。他の教科とも関連付けながら、技術の向上につながる効果的な活用方法について研究を深めていききたい。 ・昼休みは、外で遊んでいる児童も多く、一輪車や竹馬などの遊具を使用している児童も多かった。 ・朝は、ボランティア活動を行っている児童はいるが、外遊びを行っている児童はいなかった。適した季節に、外で遊ぶことを勧めていききたい。 ・サッカーゴール等の遊具で壊れているものについては、修理をし、使用できるようにしてきた。 ・児童にキバツ10カードを配付したが、その活用状況に対する見届けができていない。見届けまで確実に行っていききたい。 ・保体委員会の児童と連携し、正しい方法で歯磨きができるようになるための取組を行ってきた。 ・検診の結果を使用して、参観日の学校保健委員会で受診の呼びかけを行った。また、保健日よりや学級通信を活用して、長期休業などの期間を利用した治療の呼びかけを行った。 ・残り5名(25%)が治療が終わっていない。継続して家庭にも協力を呼びかけを行っていく。 	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びの中で、楽しみながら自然に体を鍛えることが、心身共に健康な体力づくりに有効であると思う。 ・昔と違って、今の子供達はあまりにも学ぶことが多く、健康な体力づくりを理解できる環境には無いように思える。 ・体力の向上を図るためには、タブレットだけではなく、実際に遊ぶことが大切である。 ・外部の有名選手を招いて講演等の授業を行うことも有効かも知れない。 ・体育の授業、遊具を使った外遊び、ボランティア活動等、先生方の工夫と苦勞は、大いに評価できる。
			食育	重点目標: 望ましい食習慣を身に付けた児童の育成 手段: 1 食に対する指導の充実、食育の推進 2 年間2回の弁当の日の実施と感謝集会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の結果と比較して、教師の評価が0.6ポイント下がっている。昨年度まで行っていた「eデー」を本年度は実施していないことや感染症拡大防止の観点から、ふれあい給食を行っていないことが原因と考えられる。学級担任の負担は増えるが、学級での指導と会議用アプリを活用したふれあい給食を実施することで、改善を図りたい。 ・夜遅くまでゲーム・動画視聴をすることの影響や朝ご飯の重要性について、保護者の方への啓発活動を行っていききたい。 ・給食感謝集会は、1月に実施できた。食に対する感謝の気持ちをもち、食を大切にできる子供たちを育てていききたい。 ・全学年で食育の授業を実施することで、自分で食事のバランスを考えられる児童を育成したい。 ・今年度は、まだ弁当の日を実施できていない。3月の遠足の日に設定されている弁当の日は実施する予定である。 ・弁当の日ではなくても、弁当が必要な時には、手伝っている児童が多くなってきた。 	2	3

次年度の方向性についての校長所見	<p>○ 今年度、授業改善や家庭学習の工夫、タブレットの活用など多くの改善を手がけてきた。次年度は、その改善の成果を、児童・家庭・学校ともに共有し成長を喜び合える環境を作り出していくことが重要であると考えます。○ コロナウィルスの拡大に伴う行動制限が多い中、健康作りに関する意識の高揚が今後も継続して求められる。運動・食への取組を、全児童で取り組んでいけるよう更なる改善を図っていききたい。○ 児童自身が須木小を自分たちで作る学校として考えることができるように、主体性を持って行動する場を多く設定していききたい。</p>
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------